

## 事例 1 CEFR の共通参照レベルと Can-do で初級シラバスを見直す —講師の協働によるコース改善—

国際交流基金

ケルン日本文化会館 日本語講座

### 機関／コースの概要

ケルン日本文化会館の日本語講座（以下、ケルン講座）は、開講 40 年の歴史を持つ、一般社会人を対象とした講座です。学習者は、社会人、大学生、高校生、年金生活者など多様です。学習目的は「日常会話」「日本文化理解」「情報収集」「趣味」などが多く、「仕事」や「留学」はあまり多くありません。夏コースと冬コースの 2 コース制で、初級から上級まで 9 レベルのクラスがあります。ドイツ語で“Stufe”（シュトゥーフエ）は「段、級」を意味し、クラスのレベルの名称として使用しています。本実践は、Stufe1 から Stufe5 までの初級クラスで行いました。初級クラスの使用教材は『みんなの日本語 I・II』と『Basic Kanji Book vol. 1』です。初級クラスは日本語母語話者と非母語話者のチームで授業を担当することが多いです。

### 実践者・協力者

ケルン日本文化会館日本語講座は、国際交流基金が派遣している日本語教育専門家（以下 派遣専門家）がコースコーディネーターとなり、非常勤講師と共に授業を担当しています。本実践は、Stufe1 から 5 を担当する派遣専門家 3 名（のべ人数）と非常勤講師 11 名で取り組み、派遣専門家がまとめました。



写真 Can-do  
ワークショップの様子

国際交流基金ケルン日本文化会館

日本語教育専門家 岩澤和宏・三矢真由美

### 実践の概要

本実践は、ケルン日本文化会館日本語講座の初級クラスにおいて、2008 年から 2009 年まで、JF 日本語教育スタンダード（以下、JF スタンダード）開発の一環として、CEFR の共通参照レベルと CEFR Can-do を各クラスの目標設定に使い、ケルン独自の Can-do（ケルン Can-do）と新しいシラバス（ケルンシラバス）を作成し、講師間で共有することを目指した取り組みです。

ケルン講座には、

- (1) 従来の使用教科書で扱われている場面がケルンの学習者の言語使用を考慮したものではない。
- (2) 講師の教授観や教授経験によって授業活動の内容に大きな差が出る。

といった 2 つの課題がありました。これらの課題を解決するために、どのような取り組みを行い、その過程でどのような課題を乗り越え、その結果どのような効果があったかについて報告します。

ケルン講座の取り組みは、海外の日本語初級コースを CEFR の共通参照レベルや CEFR Can-do で見直したい方々に参考にしていただけるのではないかと思います。

本取り組みは JF スタンダード開発途中で行われた取り組みです。ケルン講座担当者が経験した困難やそれを克服するための方策を検討し、『JF スタンダード 2010』を形にすることができました。

## 背景とねらい

ケルン講座は開講以来その時々状況を踏まえ、これまで様々な見直しや試みを行ってきました。2002年には、初級の主教材を『みんなの日本語』に変更し、コミュニケーション能力の育成を目指したカリキュラムに変更しました。しかし、このカリキュラムには、「(1) シラバスの内容は、ケルンの学習者の言語使用をふまえたものとは言えず、日本の生活を想定したコミュニケーション場面が中心である」「(2) 講師の教授観や教授経験によって授業活動の内容に大きな差がある」という2の課題がありました。

これらの課題を解決するために、次のような取り組みを行いました。

- ◆CEFRの共通参照レベルとCEFR Can-doを参照し、Stufeごとにケルンの環境での言語行動目標をCan-doの形で記述した(ケルン Can-doの作成)。
- ◆教科書の学習項目と照らし合わせて、新しいシラバスを作成した(ケルンシラバスの作成)。
- ◆新シラバス作成による学習目標の変更に合わせて口頭試験を新しく始めた(口頭試験の導入)。
- ◆授業実施後に各担当講師がシラバスの問題点を記入できるよう授業記録フォームを改訂して、シラバスの見直し・改善(ケルンシラバスの見直しと改善)を行った。

これら一連の取り組みは、2つめの課題である講師間の授業活動の差を小さくするための解決にもつながるのではないかと考えました。

## 経緯と取り組みの概要

### (1) Can-doによる学習目標策定

Stufe1からStufe5の担当講師9名が、次のような手順で、ケルンの学習者を考慮したケルンCan-doを作成しました。

#### ①学習者のレベル設定

CEFRの共通参照レベルのレベル別の特徴を理解したうえで、Stufe1からStufe5の初級段階の学習者のレベルをA1、A2レベルであるとしました。

#### ②ケルンCan-doの整理と講師間での共有

9名の担当講師全員がグループに分かれて、Stufe1のケルンCan-doを、教科書の学習項目を考慮しながらCEFRの5つのコミュニケーション活動「聞くこと」「読むこと」「やりとり」「表現」「書くこと」の分類で作成し、講師全員で共有しました。

表1 Stufe1のケルンCan-do例

| Stufe 1 <sup>o</sup> |  |
|----------------------|--|
| 聞くこと <sup>o</sup>    | 授業でよく使われている簡単な指示がわかる <sup>o</sup><br>簡単な自己紹介を聞いて、名前・住所・好き嫌いなどが理解できる <sup>o</sup>                         |
| 読むこと <sup>o</sup>    | コンピュータのカタカナ表記のコマンドを理解できる <sup>o</sup><br>駅・店・看板などで、商品の値段が読める <sup>o</sup>                                |
| やりとり <sup>o</sup>    | 店で値段などをたずねて、ほしいものを買うことができる <sup>o</sup><br>誘うことができる。また誘いに応じたり断ったりできる。 <sup>o</sup>                       |
| 表現 <sup>o</sup>      | ものや場所のかんたんな描写ができる <sup>o</sup><br>自分(家族や仕事)について話せる <sup>o</sup>  |
| 書くこと <sup>o</sup>    | 自分や家族のこと(住んでいる場所や仕事など)について簡単な文章が書ける <sup>o</sup><br>はがきやカードの簡単なメッセージが書ける(誕生日、お礼のカード、クリスマス…) <sup>o</sup> |

### ③Stufe1 以外のケルン Can-do の作成

Stufe1 以外の Stufe2 から Stufe5 の Stufe ごとのケルン Can-do を、各レベルを担当する講師で分担して作成しました。

#### (2) ケルンシラバスの作成

講座全体のコーディネーターが、Stufe ごとのケルン Can-do をもとに各回の授業内容が明確になるように、シラバスを作成しました。

##### ①ケルン Can-do の目標化

ケルン Can-do を『みんなの日本語』の中で最も該当する課に振り分け、各課の目標としました。

##### ②学習項目の振り分け

目標を達成するために必要な学習項目を振り分けました。学習項目としては該当課の主要項目が入るほか、以前学習した項目で、その目標を達成するために役立つと思われる項目を「リサイクル項目」として提示しました。

ケルン Can-do と学習項目・評価の関係は図1の通りです。

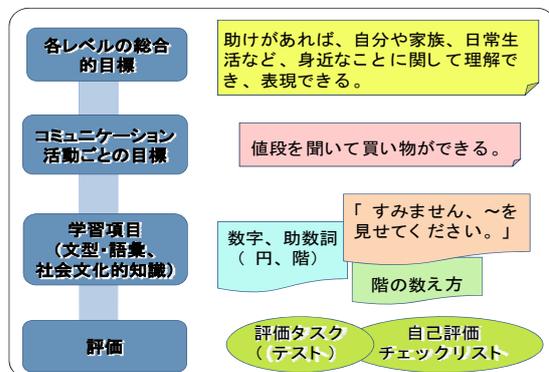


図1 ケルン Can-do と学習項目、評価の関係

### ③ケルン Can-do と CEFR Can-do との関連性の確認

①②の作業と同時に、ケルン Can-do が CEFR のレベルを反映しているか、CEFR Can-do とどう関連しているかを見るために、個々のケルン Can-do と CEFR Can-do の突合せ作業を行いました。個々のケルン Can-do は複数の CEFR Can-do と関連していることを確認し、ケルン Can-do の「受容的活動」「産出活動」「相互行為活動」のバランスを確認しました。¹

表2 Stufe1 のシラバス抜粋

| 言語行動目標   |  |                                       |    |    | 学習項目   |                                   |         |                             | 評価など |   |   |   |   |
|--|--|---------------------------------------|----|----|--|-----------------------------------|---------|-----------------------------|------|---|---|---|---|
| 聞く   | 読む   | やり取り                                  | 表現 | 書く | 文法項目   | 語彙・表現                             | リサイクル項目 | 社会・文化的知識                    | 語    | 読 | 聴 | 口 | 作 |
|  | 駅・店・看板などで、商品の値段が読める<br>RW3-A2-1△                                   |                                       |    |    | 数字(3)<br>助数詞:円(3)  |                                   |         |                             |      |   |   |   |   |
|  | 映画・イベントのポスター・チラシなどの日付、曜日・タイトル・値段などが理解できる<br>RW3-A2-1△<br>RW3-A2-3△ |                                       |    |    | 日付(5)、時刻(4)、曜日(4)、数字(3)、助数詞:円(3)   |                                   |         |                             |      |   |   |   |   |
| 誕生日・日付などの時の表現が聞いて理解できる<br>IS1-A1-1<br>IS2-A1-1<br>LL2-A1-1 |  |                                       |    |    | 日付(5)  |                                   |         | 日付の読み方(月と日の順番)              |      |   |   |   |   |
|  |  | ものがどこにあるか尋ねられて、また答えられる<br>LL2-A1-1    |    |    | こそあど:場所(3)<br>N1はN2(場所)です(3)<br>助数詞:階(3)<br>います、あります(10)<br>助詞:あそこに(10)<br>助詞:写真が(10)位置の表現(10) | すみません                             |         | 階の教え方                       |      |   |   |   |   |
|  |  | 店で値段などを尋ねて、ほしいものを買うことができる<br>LL2-A1-1 |    |    | 数字(3)<br>助数詞:円(3)、階(3)   | すみません<br>~を見せてください。<br>じゃ、これください。 |         | 店員の決まり切ったあいさつには普通反応しない階の教え方 |      |   |   |   |   |

目標:  
相手にはっきりゆっくり話してもらえ、かつ、助け(繰り返し、修正、言い換えなど)が得られるような状況であれば、ごく基本的なあいさつや非常に簡単な自己紹介、自分や家族、日常生活など身近なことに関して理解でき、自分でも表現できる。

### (3) 授業の実施

#### 授業記録フォームの改訂

2008 年冬コースからケルンシラバスでの授業を開始しました。新シラバスの内容を講師間で評価するために授業記録フォームを改訂しました。担当講師は授業を実施しながら、「ケルン Can-do がレベルに合っているか」、「ケルン Can-do を達成するために教科書以外の言語項目（文法項目や語彙など）で必要な項目はないか」、「目標との関連がとらえにくい学習項目はないか」について検討しました。担当講師は、授業内容や問題点や気づいた点を、授業実施後に授業記録フォームに記入しました。

表3 授業記録フォーム

Stufe 1A 8課 5月 27日(担当者: ) 出席者:12名

8課の目標: ものや場所の簡単な描写ができる。印象を伝えることができる。

| 活動の目標                | 活動内容  | リソース          | 聞く | 読む | 取り | 表現 | 書く | 言語       | 社会・文化的知識 | 評価 | 備考                                      |
|----------------------|---|---------------|----|----|----|----|----|----------|----------|----|---|
| 月曜日の復習               | い形容詞とその否定形を思い出す   | 絵パネル          |    |    | ○  |    |    | 語彙<br>文法 |          | 3  | はじめての人は少し大変でしたが、すぐ追いつきました。              |
|                      | い形容詞のカードをグループごとに渡す。順番に一枚ずつ引き、引いた形容詞で質問を作りクラスメートに聞く。否定形で答えること!                 | い形容詞カード       |    | ○  |    |    |    | 語彙<br>文法 |          | 4  |   |
| 形容詞の意味と表記を覚える        | いAdjの絵を見て単語を書く  | 文型練習帳 8-1     |    |    |    |    | ○  | 語彙<br>文字 |          | 3  | 書く練習として非常によかったと思います。                    |
| 簡単な挨拶ができ、相手の様子が尋ねられる | A: おはようございます。暑いですね。<br>B: そうですね。お仕事はどうですか。<br>A: とても忙しいです。<br>B: そうですか、大変ですね。 |               |    |    | ○  |    |    | 表現<br>談話 |          | 3  | モデル会話を文字/記号で板書。みなでクラスを歩きながら「人に会う」という設定。 |
| 語いを広げる               | な形容詞  | 語彙リスト<br>絵パネル |    |    |    | ○  |    | 語彙       |          | 3  |   |
| なAdjの活用ができる          | な形容詞の否定形を導入   | A-1.板書        |    |    |    |    |    | 文法       |          | 3  |   |
| 簡単な描写の文が言える          |   | B-1, 2, 3     |    | ○  |    |    |    | 文法       |          | 3  |   |

#### 口頭試験の導入

ケルン講座では、これまでコースの最後に、文字・文法、読解、聴解、作文の筆記試験を行ってきました。しかし、時間的な理由などから口頭試験は行ってきませんでした。しかし新シラバスの目標には「やりとり」「表現」といった口頭コミュニケーションに関わるものが多く、このような能力は筆記試験だけでは測れないと判断し、口頭試験を導入することにしました。

#### 授業の流れの例

講師は新シラバスをもとにケルン Can-do の目標を達成することを考えながら授業計画を立てました。その際、すべての Stufe で初級の授業の流れとして次のようなことを共有しました。

##### ①新しい課の第一日目にその課のケルン Can-do を提示し、学習者に目標意識を持たせる。

提示の方法は各講師に任せましたが、たとえば「この課では自分がほしいものややりたいことを表現できるようになりましょう」とドイツ語で明示的に説明する講師、「こんな状況のと

きにどうということが表現できる？」のように場面や状況とケルン Can-do を関連づけて提示する講師など多様でした。また、講師によってはホワイトボードにその課の目標を板書し、達成されるごとにチェックをつけて視覚的に達成感を持てるような工夫をしている講師もいました。口頭での提示に加え、学習者に配布する予定表に各課のケルン Can-do をわかりやすく表現したものを載せ、学習管理ができるようにしたクラスもありました。

②続いて、目標となる語彙や文型を導入する。そして、文型練習などの基本的練習を行う。

文型導入から基本練習までの具体的な教室活動の流れは、目標によって異なります。

③最終的には目標となる言語行動が含まれた練習を行う。

進度、授業の具体的な進め方、教科書の練習問題の扱い方などの細かい点は各講師に任せましたが、最初にケルン Can-do の目標を提示することと、それぞれの学習項目の導入と練習が最終的には課題の遂行につながるような流れにするという方針は共有しました。

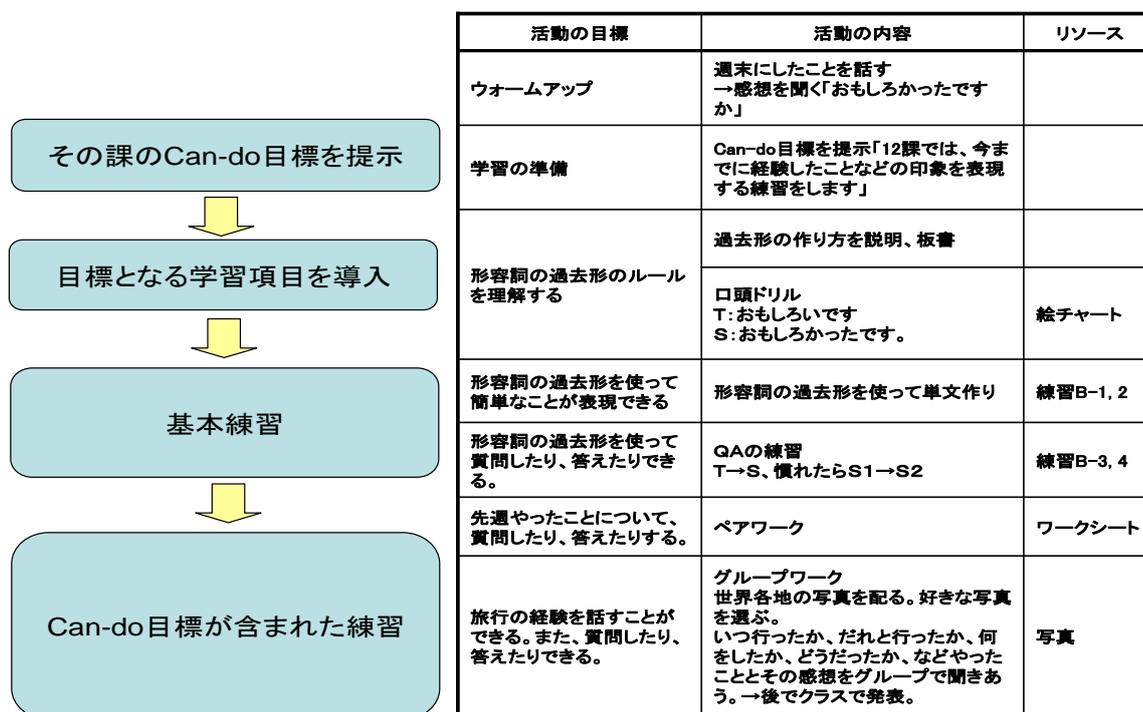


図2 授業の流れの例

#### (4) シラバスの問題を探り改善する

新シラバスは 2008 年度の冬コースと 2009 年度の夏コースの 2 回のコースで実際に使用しました。シラバスの内容面の問題点を探るため、講座コーディネーターが、授業記録の分析や講師に対する聞き取り調査を行いました。

##### シラバスの問題点

この結果、ケルン Can-do、ケルンシラバスの問題点として、次の 4 つがあることがわかりました。

##### ①学習者の日本語能力に合わない Can-do

特に「書く」目標と「読む」目標は学習者の能力よりも高い目標であると講師が感じたケルン Can-do が多くありました。

## ②ケルンの学習者に合わない Can-do

日本でしか遭遇することのないような場面や状況のケルン Can-do があげられました。

## ③特定の課に割り振れない Can-do

特に、文字や表記に関係した Can-do は、特定の課に割り振ることが難しかったです。

## ④Can-do との関連がとらえにくい学習項目

言語行動という視点から見ると、どういった行動と関連があるのかがとらえにくい学習項目がありました。このような文型や項目は、特定の行動目標を達成するために不可欠な項目にはなりにくく、複数の言語活動を行うための土台となっているのではないかと考えられます。

## シラバスの見直し案

調査の結果明らかになった問題点を、次のように改善しました。

### ①学習者の日本語能力に合わない Can-do

ケルン Can-do を学習者のレベルに合わせました。例えば、ケルン Can-do に「ごくやさしい日本語で書かれた・・・」などの条件をつけたり、Stufe 1 ではひらがなは読み書きを目標とするがカタカナは読みだけ为目标とするなど、読む・書くの重みづけを変えました。

### ②ケルンの学習者に合わない Can-do

直接体験的な目標は間接体験的なものに直すなど、Can-do をケルンの環境に合わせました。例えば、必要な情報を得るという目標の場合、日本国内では自分で直接情報を入手する機会が多いですが、海外では友達や先生を通して必要な情報を得るほうが現実的な目標になるのではないかと考えました。

### ③特定の課に割り振れない Can-do

文字・表記に関する目標をどのように扱うのかに関しては今後の課題として残りました。ひらがなとカタカナの Can-do をどのように作成し、コースの中でどのように扱うのかを検討する必要があります。漢字については、Can-do に沿ってある程度のカテゴリー化はできそうですが、現在使用中の漢字教材を変更しなければならないなど、現実的な問題があります。

### ④Can-do との関連がとらえにくい学習項目

Can-do の記述のあり方と、Can-do との関連がとらえにくい学習項目をコースの目標としてどのように扱うかということも課題として残りました。Can-do の記述のし方によっては、下のレベルであればごく簡単な表現や文型を使って達成可能で、上のレベルであればさらに複雑で丁寧な表現を使って達成するということが起きるため、Can-do をレベルによってどのように書き分けるか、どこまで具体的に記述するか、などの課題が残りました。

表 4 改訂後のケルンシラバス(Stufe1)の抜粋

総合目標:  
相手にはっきりゆっくり話してもらえ、かつ、助け(繰り返し、修正、言い換えなど)が得られるような状況であれば、ごく基本的なあいさつや非常に簡単な自己紹介、自分や家族、日常生活など身近なことに関して理解でき、自分でも表現できる。

|                    | 言語行動目標 |  |  |                  |    | みん日      | 学習項目  |  |          |                             | 評価など |
|--------------------|--------|--|--|------------------|----|----------|---|--|----------|-----------------------------|------|
|                    | 聞く     | 読む                                       | やり取り   | 表現               | 書く |          | 文法項目  | 語彙・表現  | リサイクル項目  | 社会・文化的知識                    |      |
| 自分や自分の身近な人について表現する |        |  | 簡単な紹介や挨拶ができる   |                  |    | 1        | Nは～です／じゃありません(1)<br>はい／いいえ(1)<br>～は～ですか(1)<br>助詞の、も(1)<br>数(1～100?)(1)                                      | 失礼ですがお名前は何から来ましたどうぞよろしく【お願ひします】<br>国名<br>職業<br>年齢<br>だれ(どなた)何歳(おいくつ) |          | おじぎをする握手をしない女性に年齢を聞かない      |      |
|                    |        |  |  | 自分(家族や仕事)について話せる |    | 1, 10    | Nは～です／じゃありません(1)<br>はい／いいえ(1)<br>助詞の、も(1)<br>数(1)<br>います、あります(10)<br>助詞:あそこに(10)<br>助詞:写真が(10)<br>位置の表現(10) |  |          | 身内をほめない                     |      |
| 情報を集める             |        |  | 店で値段などを尋ねて、ほしいものを買うことができる                                |                  |    | 3        | 数字(3)<br>助数詞:円(3)、階(3)  | すみません～を見せてください。じゃ、これをください。   |          | 店員の決まり切ったあいさつには普通反応しない階の教え方 |      |
|                    |        | 映画・イベントのポスター・ちらしなどの日付、曜日・タイトル・値段などが理解できる |  |                  |    | 3, 4, 5  | 日付(5)、時刻(4)、曜日(4)、数字(3)、助数詞:円(3)  |  |          |                             |      |
| 人間関係を広げる           |        |  | 誘うことができる。また誘いに応じたり断ったりできる。待ち合わせの場所・時間を決めたり、断る理由を説明したり出来る |                  |    | 6, 9, 10 | ～ませんか(6)<br>～ましょう(6)<br>～から(理由)(9)<br>～がある(10)  | いいですね<br>金曜日はちょっと・・・。<br>残念ですね。                                      | 曜日、時刻、数字 | 婉曲に断る電話をかける                 |      |

## 成果と今後の展望

### (1) ケルンシラバスについて

#### 学習者のニーズ

CEFR では、言語使用領域を、私的領域、公的領域、職業領域、教育領域の 4 つの領域でとられています。ケルン Can-do がケルンの学習者の言語使用に近いものであるか検討する際に、この領域という考え方が参考になりました。担当講師間で、日本でしか遭遇することのないケルン Can-do は必要ないという意見がある一方で、日本で長期間生活する上でのケルン Can-do は必要ないが、旅行者として遭遇するものは必要があるという意見も出ました。その他、学習者の中には教室の中で日本を疑似体験することに意義を感じている人もいるという意見もありました。現実的に遭遇する可能性の高い領域と、それほど必要性は高くないが体験してみたい領域という観点から、ケルンの学習者の日本語使用領域を整理することで、シラバスを学習者のニーズにより近づけることが可能だと考えています。

#### 評価法の改善

今回の取り組みにおいて、評価法をどう変えるのかという問題も提起されました。Can-do で目標設定を行った場合、何をどのように評価すべきなのか講師間で対話を続け、評価法の改善を続けていかなければなりません。まず、筆記試験はまだケルン Can-do を達成したかどうかを測る評価ツールとして十分とは言えません。また、日々の宿題や課題など形成的評価とコース終了時に行う達成度評価(筆記試験と口頭試験)の関係なども整理する必要があります。そして、

レベルごと、つまり Stufe 間のつながりの中で各 Stufe の評価のあり方を検討する必要もあります。

### **ケルン Can-do の記述**

ケルン講座の取り組み後に開発した JF スタandard 「みんなの Can-do サイト」では、利用者が独自に作成する Can-do を MY Can-do と呼び、新しく Can-do を作成するためのレベルの特徴を提示しています。ケルン講座独自に新しく作成したケルン Can-do が、対象とする学習者のレベルに合っているかどうか、ケルン Can-do が CEFR のレベルの特徴をふまえているかどうかを検討する必要もあります。また、ケルン Can-do を「みんなの Can-do サイト」で提供する Can-do の種類（活動 Can-do、テキスト Can-do、方略 Can-do、能力 Can-do）で分類することで、全体のバランスを確認したり、文字表記に関する Can-do のように特定の課に割り振れないケルン Can-do や、Can-do との関連がとらえにくい学習項目をどのように扱ったらいいか検討することもできるのではないのでしょうか。

## **（２）講師間の授業活動の差**

### **講師間での教育実践の共有**

ケルン講座では以前から、1 コースあたり 2～3 回の全体講師会議、授業記録の共有、自作教材の共有などを実践してきましたので、チームティーチングを円滑にする土台がありました。今回の取り組みでは、各レベルのシラバスを担当講師以外の講師にも配布し、講師会議の際に全員で検討しました。異なるレベルの担当講師からのフィードバックは、自分のレベルを客観的に見る視点をもたらしました。また新シラバス導入にともない、授業記録のフォーマットを統一しましたが、これにより他の講師と自分の授業実践を比較することが容易になるなどの利点がありました。自分の担当レベル以外の講師との話し合いによって、自分の担当レベルのケルン Can-do が中級の目標と関連していることを発見したり、学習者の言語行動が自分の身の回りから、家族、友達、教室内の人との関わりを経て、次第に外の人との関わりへと広がっていくというイメージを描くことができた講師もいました。このような気づきは、自分の担当レベルだけを見ていただけでは決して生まれなかったでしょう。

### **チームティーチングのあり方**

ケルン講座では、これまでもチームティーチングによる授業実践を実施してきたため、講師間のコミュニケーションは概ねよくとれていました。しかし本取り組み以前の文型中心のシラバスの時は、文型を分担してあとは各自で担当箇所を教えていました。それに対し、ケルン Can-do に基づく授業では、各講師がそれぞれ違う項目を教えるにしても、各項目が互いに密に関連しており、最終的に目指すところは同じケルン Can-do を達成することであるから、これまで以上にチームで考え、決め、実行することが多くなりました。これは講師間の対話をより多く生み出すきっかけとなりました。2 人のチームティーチングでは、意見の相違が生じた場合、相手に自分の考えを率直に伝えるのが難しい場合もありますが、チーム間で浮かび上がった問題点を講師全員の問題として共有し、グループの一人の意見として伝えるほうがスムーズに行くことも多いでしょう。また、担当のレベルやクラスで生じた問題は、他のレベルを参考にしたりすることで解決することもあるでしょう。

## 教師の協働環境の整備

ケルン講座は教師の協働による講座改善の第一歩を踏み出しました。その結果、各講師が自らの教育実践を内省し、内省した結果を共有し、講師間の対話が促進されました。次なる課題はこの取り組みを一度で終わらせずコースの中に定着させ、継続的に行っていくことです。そのためには、教師の協働を可能にするような環境を日ごろから整備しておく必要があります。例えば、授業記録や自作教材は講師の共有コンピュータに保存し、誰でもアクセスしたりアップデートできたりするようにしておくことなども有効でしょう。自分が授業計画を立てたり、授業実践を内省するときに参考にできるでしょう。今後も、講師会を引き続き定期的実施し、会議を単なる授業の引き継ぎだけでなく、日頃の問題点を共有したり、疑問点を話し合う教師の対話と内省の場としても機能させることが重要であると考えています。

どの講座でも、その時々課題があります。その意味では講座の見直しに終わりはありません。今後も講師間の協働を続け、中長期的な視野に立って講座改善を続けていきたいと思ひます。

## 学習者の声

- ・自分の成長が目で見えてよかったです。動機づけになりました。(Stufe1 Aさん)
  - ・自己評価チェックリストは、最初は「できない」ばかりで、最後にほとんど「よくできる」に変わっていたので、コースでよく教えられたと思いました。(Stufe1 Bさん)
  - ・3回目のチェックで「まだできない」と思ったものは、試験準備のとき意識して復習しました。振り返りになりました(Stufe1 Cさん)。
  - ・「日本体験」の記入は、コースにはあまり関係がないと思ひましたが、記入はなんだかかわいい気持ちになりました(Stufe1 Dさん)。
- 次のコースが始まる前に、もう一度ポートフォリオを見ようと思ひました。今、クラスメートと会って、忘れないように復習していますが、ポートフォリオを使って、コースの内容を把握しようと思ひています。(Stufe1 Eさん)。
- ・ポートフォリオはうちに持って帰りたかったです。うちでもっと深く考えて記入できればと思ひました。(Stufe1 Fさん)

## 教師の声

- ・ Can-do 目標を決め、それを学習者に提示から授業をするので、そこまで持っていかなければいけないという責任がうまれました。(2009 夏コース Stufe1, 4 担当 G先生)
- ・ 学習者にできるようになってほしいということを念頭に置いて授業をすること、こういった意識改革を引き続きやっていく必要があると思います。そしてそれをどのように授業活動に置き換えていくかですが、他の先生たちの作った活動を授業記録に添付したり、非常勤講師のコンピュータにストックしてみんなでシェアしていけば参考になるのではないのでしょうか。(2009 夏コース Stufe2, 3, 5 担当 H先生)
- ・ 私の場合、どうしても教科書の内容を全部こなすことに集中してしまうのですが、シラバスがあると、文型を学ぶ目的がはっきりしているので、教科書を使わないグループ活動なども作りやすかったです。(2009 夏コース Stufe2 担当 I先生)
- ・ Can-do 目標を使った試みは、コミュニケーション上の目標を学習者に達成させる手段としても大切だと思います。私たちは今、授業で使っている教材のために目標を設定し、それが達成できたかどうかを検討していますが、これは言うてみれば『みんなの日本語』の目標カタログを作っていることとなります。この目標カタログに合うような教材を今後開発していくことが本当に意味のあることではないのでしょうか。(2009 夏コース Stufe2, 4 担当 J先生)

## 参考文献

国際交流基金 (2009) 『JF 日本語教育スタンダード試行版』

<教材>

加納千恵子他 (1989) 『基本漢字 500 Basic Kanji Book』

スリーエーネットワーク (1998) 『みんなの日本語』

---

<sup>i</sup> ケルン Can-do と CEFR Can-do のつきあわせの作業を行う時点では、JF スタンダードの開発側では CEFR Can-do の構成や種類や、各レベルの記述面の特徴などに対する十分な理解や分析がまだ終了していない段階であったため、作業に時間がかかった。この経験をふまえ、「みんなの Can-do サイト」では、利用者に対して CEFR Can-do の構成や種類や、各レベルの記述面の特徴をわかりやすく提示できるようにした。